

本書は、1960年代から70年代を中心とした、  
日本教職員組合（日教組）婦人部の  
労働運動に着目し、  
その運動の過程を丁寧に追い、  
当時の女性解放論や母性保護論争を  
絶えず参照した組合員の  
実像を明らかにする。

2020年  
1月刊行!

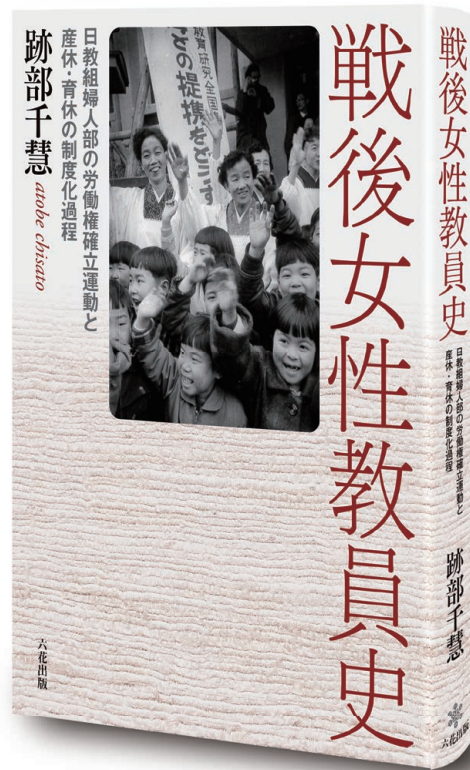
定価：4,800円+税  
体裁：A5判・上製・240ページ  
ISBN978-4-86617-081-7

# 戦後女性教員史

日教組婦人部の労働権確立運動と産休・育休の制度化過程

跡部千慧 著

戦後の女性教員たちは、  
「女性の労働権確立」という視点を貫いて、  
産休代替教員制度の  
制定運動に取り組んでいた。  
また、他の労働組合との連携よりも  
「母親」との連帯に注力し、  
その後の育児休業法制定へと進んでいく。



推薦のことば 井上恵美子 (フェリス女学院大学)

本書は、戦後の女性教員運動史について、とりわけ産休代替法制定運動と育児休業法制定運動に焦点をあて、古くて新しいテーマである「女性の労働権」と「母性保護」の問題に真正面から迫っている。

具体的には、原資料（『日教組運動資料（婦人）』『婦人部総会・委員会議案報告資料集』『専門部婦人部報』）を緻密に検討するとともに、運動のリーダーや組織内部の議論だけではなく、国会の審議過程・政党間の力関係、他の運動団体、女性解放運動をリードする理論も分析対象とし、そのダイナミクスの中で

いかなる選択が迫られてきたかを解明している。

本書は女性教員の継続就労を要求してきた日教組婦人部の運動過程を解明した最初の研究書であり、産休育休の代替者制度を実現している点をはじめとするその先駆的な女性教員運動の歴史から学ぶことはたくさんある。さらにそれにとどまらず、戦後の女性運動史研究の成果に女性教員の運動を位置づける視野の広さにも本書の特徴がある。様々な労働状況にある広範な女性たちが今後の女性運動を展望するために、是非多くの方々に読んで頂きたい。

### 序章 ● 問題関心と本書の課題

- 0-1 ▼ 問題関心
- 0-2 ▼ 本書の構成

### 第一章 ● 先行研究の到達点と課題

- 1-1 ▼ 女性教員職を研究する意義
- 1-2 ▼ 戦後の女性教員研究
- 1-3 ▼ 産休代替法制定に関する研究
- 1-4 ▼ 「女性教員等の育児休業法」に関する研究
- 1-5 ▼ 小括——本書の課題

### 第二章 ● 考察する対象と分析視角

- 2-1 ▼ 本書の方法論  
母性保護と労働権をめぐる論争／二項対立を乗り越える視座
- 2-2 ▼ 使用するデータ

### 第三章 ● 日教組婦人部の運動と基本方針

- 3-1 ▼ 結成時から一九七〇年代にいたる日教組婦人部運動
- 3-2 ▼ 戦後の女性教員の動態と運動  
日教組加入率と労使関係／戦後の女性教員の動態／運動の中心人物と運動方針に影響を与えた思想

### 第四章 ● 「母性保護」を戦略的なタームとした産休代替法制定運動

- 4-1 ▼ 先行研究における産休代替法の評価
- 4-2 ▼ 分析方法と対象
- 4-3 ▼ 「命を守る」闘いとしての産休代替教員要求——構想から運動方針化段階  
産休代替教員の構想——一九四五年から一九五〇年／産休代替法制定の運動方針化——一九五〇年から一九五四年  
産休代替法制定運動——一九五四年から一九五五年／産休代替教員の義務化要求運動——一九五五年から一九六一年
- 4-4 ▼ 産休代替教員法制化に向けた母親との連帯運動  
母親との連帯運動——母と女教師の会／産休代替教員法制化と「母」である女性教員
- 4-5 ▼ 産休代替教員の処遇をめぐる運動展開  
産休代替教員の法的位置づけの変化——構想から法制化段階／本採用化の試みから処遇改善運動へ——法制化後の動向  
日教組婦人部における産休代替教員処遇改善運動の意味
- 4-6 ▼ 小括

### 第五章 ● 「労働権」を戦略的なタームとした育児休業法制定運動

- 5-1 ▼ 先行研究における論点
- 5-2 ▼ 分析方法と対象
- 5-3 ▼ 育児休業制度の構想から運動方針化段階  
育児休業制度の要求／日教組婦人部運動の基軸となった思想／育児休業制度の三原則——女性の労働権確立をめざして
- 5-4 ▼ 育児休業制度の提案から法成立へ  
育児休業制度への反対意見／育児休業法の成立
- 5-5 ▼ 小括

### 終章 ● 結論と残された課題

- 6-1 ▼ 女性労働史を捉える視座
- 6-2 ▼ 女性教員の一九六〇年代・七〇年代
- 6-3 ▼ 今後の課題

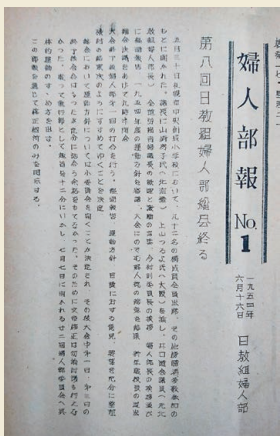
参考文献／あとがき



第3回教研大会(場内写真)(静岡市・1954年1月)



「扉をひらくもの」(表紙・目次)(1953年2月)



『婦人部報』No.1(表紙)(1954年6月)

#### 著者紹介

跡部千慧 (あとべ・ちさと)

2009年 法政大学社会学部メディア社会学科卒業

2011年 一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻修士課程修了

2016年 一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程修了  
博士(社会学)取得

現在 静岡大学大学院融合・グローバル領域 助教

\*小社は注文制です。お近くの書店にご注文ください。  
お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。

電話 03(32693)8787 FAX 03(32693)8788 電子メール info@rikka-press.jp

注文カード

帖合・書店名

〈八木書店経由〉

注文数

冊 発行 六花出版 跡部千慧 著

## 戦後女性教員史

日教組婦人部の労働権確立運動と産休・育休の制度化過程

定価 本体四、八〇〇円＋税 ISBN 978-4-86617-081-7

お名前

電話番号

注文 年 月 日